

県民の森 植物紹介

⑤1 サルナシ (マタタビ科)

山地に生える蔓性の木です。梅雨の頃、白い花が咲きます。秋に熟す実は緑色の百円玉くらいの大きさで、小型のキウイフルーツのようです。皮に毛はありませんが、断面や香りはそっくりで、コクワ、ベビーキウイと呼ばれています。サルが好んで食べることが名の由来。甘い香りがして熟しても赤くならないのは、鳥に食べてもらうのではなく、サルやクマ等の動物に食べてもらうため。タネはとても小さくて、動物たちの鋭い歯をすり抜けてうんちになり、散布されます。人間が食べてもとても美味しい実で、いちどにすべて食べられては困るので、食べ過ぎるとタンパク質分解酵素が舌を溶かして、甘さを感じさせないようにしています。

仲間のマタタビも同じころ白い花が咲きますが、マタタビは花が咲く枝先の葉の表面が純白になりよく目立ち、蔭にある花へ昆虫を誘っています。実は黄褐色に熟しますが、独特の香りと辛みがあり人間の生食には向いていないそうです。今年初め、岩手大学などの研究チームが、猫がマタタビの葉に身体をすりつける謎の行動について、葉に含まれる化学物質を体毛に付けることで蚊を遠ざけていることを解明したニュースは新鮮な驚きでした。



絡みつクサルナシ 2021年3月7日



サルナシ新芽が顔を出した 2021年4月20日



サルナシ芽吹き 2021年6月8日



サルナシ花 2021年6月24日



サルナシ実 2020年9月2日



マタタビ葉 2021年6月24日



マタタビ花 2021年6月29日